# 古代伊勢街道の足跡を訪ねて

# 向渕

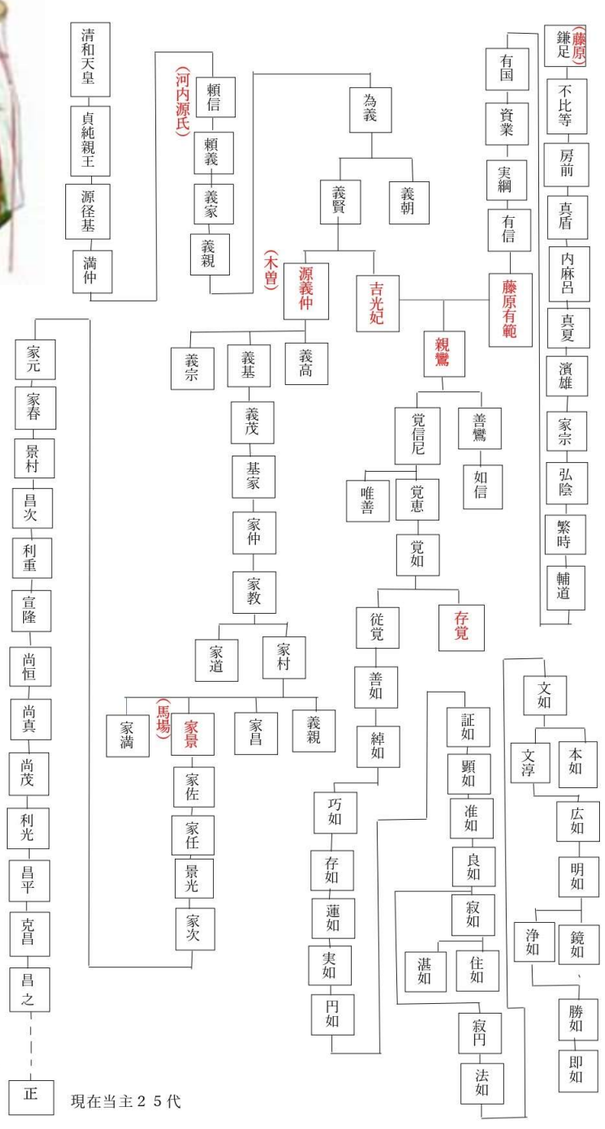
伝承堀越頓宮跡地よりの眺望

願はくは花の下にて春死なむ
その如月の望月のころ　　西行

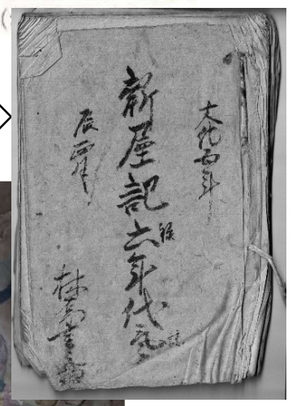
| 時代 | 国の歴史 | 西暦 | 年次 | 向渕の歴史 |
|---|---|---|---|---|
| 縄文時代 | | 4000年前 | | 字カネツキ(石鏃)、字イナベ(石鏃)、字龍神(縄文土器・石鏃) |
| 古墳時代 | | 500～ | | 字サッカ古墳、字イナベ古墳 |
| 奈良時代 | 平城京に遷都 | 710 | 和同3年 | 都祁郷を経て伊勢東国に通じる道路開拓される |
| | | 715 | 霊亀元年 | 大倭国都祁山之道と記されている。平城京―和邇―福住―南之庄―白石―無山―向渕―長瀬へ通じるものである。「続日本紀」「大和志」 |
| | | 724 | 神亀元年 | 聖武天皇即位。御勅願として高堂十一面観音菩薩祭祀あらせられた<br>「高堂由来記」　元は小字ベザイテンに建立(現在の高堂跡)<br>大門⇒竹渓山寺(飯降摩崖仏)⇒高堂が真北線上に一回で拝めるよう配置<br>また竹渓山寺跡飯降摩崖仏の南方対岸に小字大門に経塚の伝承がある<br>竹渓山寺には唐帰りの高僧、道慈律師が隠匿していて大安寺建立に尽力した |
| | 天変地異や疫病が流行る | 740 | 天平12年秋 | ？～744年(天平十六年)没、時に歳七十有余「懐風藻」<br>聖武天皇は伊勢幸行に出た。奈良の都平城京から大和国都祁山之道を通り竹渓郷(後の和州山辺郡向渕庄)堀越頓宮で一泊され5年に渡り伊勢・美濃・近江・恭仁京・難波京・紫香楽宮を転々して平城京に帰った。向渕の小字御所台が堀越頓宮跡と伝承されている。608年後に建立する正定寺の場所 |
| | 大仏建立の詔出される | 743 | 天平15年秋 | |
| 平安時代 | 保元の乱<br>平治の乱 | 1021 | 治安元年 | 向渕・牟山・小山戸・鞆田・水涌(白石)・蘭生・南殿の諸庄「山内七ヶ所」の成立「都祁水分社縁起」 |
| | | 1156 | 保元年 | 伝承によると、源為義の次男義賢(？～1155)には三人の子があり、姉を吉光姫、弟を駒王丸は、後の源(木曽)義仲(1154～1184)と妹の宮菊です。吉光姫は二十歳の時、藤原有範と結婚し、三年目の承安三年(1173)に親鸞聖人(1173～1263)をお生みになったのです |
| | | 1159 | 平治年 | |
| | | 1184 | 元暦元年 | 近江粟津で源範頼・義経軍が京に迫り、源(木曽)義仲戦死する。墓は滋賀県大津市馬場1丁目義仲寺、首塚は京都八坂の塔がある法観寺に眠る |
| 鎌倉時代 | 承久の乱 | 1221 | 承久3年 | 京都が戦乱となり戦禍を避けるため、親鸞聖人生母吉光御前が藤原有範の使用人佐津女の故郷和州山辺郡向渕庄に幽棲した。その後剃髪尼となり小字境谷に正道庵を結ぶ(現在正定寺廟所としている所) |
| | | 1223 | 貞応2年 | 吉光尼公寂、七十三歳、向渕庄東方小字東谷に葬る。場所は「里諺で伝承」 |
| | | 1311 | 応長元年 | 東大寺領伊賀国黒田庄(三重県名張市)の黒田悪党蜂起が繰り返される。<br>興福寺荘深野庄へ乱入し年貢米を押領、向渕庄も跳梁される「東大寺文書」<br>この時期に向渕庄に向渕城が造られる |
| 室町・南北朝時代 | 南北朝対立 | 1347 | 貞和3年<br>貞和3年冬 | 東山中衆として向渕庄が南朝側(宮方)に付く<br>本願寺第3代門主覚如上人(1270～1351)の長男、存覚上人58歳(1290～1373)は教学伝道で伊賀の国へ下向されその帰途同国神戸郡より大和国都祁山之道を通って和州山辺郡向渕庄の源(木曽)義仲の流れをくむ馬場家景の子孫を尋ねて来られた。吉光尼公の墓参りをなされ暫く逗留され、年を越されて京都へもどられる「存覚上人伝鑑古録」 |
| | | 1348 | 貞和4年 | 馬場家の懇願で正定寺建立される。この頃から馬場の長者と呼ぶようになる<br>龍王ケ渕の堂垣内住人が大野神田と向渕大垣内に分かれて下りてくる |
| 江戸時代 | 大阪冬の陣<br>大阪夏の陣 | 1592 | 文禄元年 | 太閤検地で奥山(郷山)を向渕領となる |
| | | 1614 | 慶長19年 | 大阪冬の陣に向渕庄から馬場家一統17騎を率いて徳川方に参戦「馬場家一統で元庄屋の新屋(新谷家の屋号)古文書」 武功を認められ幕府天領になる |
| | | 1686 | 貞享3年 | 古向渕村・新向渕村に分かれる「小廣家の古文書」 |
| | | 1828 | 文政11年 | 筒井順慶の異母兄弟順次氏より九代目の久顕氏が山辺郡向渕松本氏(福田家の屋号)へ養子に入る「福田家系図」 |
| 明治時代 | 徴兵令<br>地租改正 | 1874 | 明治7年6月 | 向渕小学校開校。明治37年日清戦争向渕戦没軍人1名 |
| | | 1889 | 明治22年 | 山辺郡都介野郷(現都祁村)から宇陀郡に編入される |
| 大正時代 | オリンピック初参加 | 1912 | 大正元年 | 古向渕村、新向渕村を統合し向渕村になる。新向渕村の番地訂正行われた |
| 昭和時代 | 満州事変<br>日中戦争<br>大東亜戦争 | 1931<br>1937～<br>1945 | 昭和6年3月<br>昭和12～20 | 参宮急行本線上本町～宇治山田間全線開通<br>向渕戦没軍人34名。近鉄電車に20年6月大野朝ヶ芝トンネル西方 200m付近で空襲があり、向渕だけで3人死亡。20年7月榊原駅手前で空襲があり、11人死亡27人重軽傷、県下最大の空襲。戦後長野県から奥山に入植された |
| | | 1961 | 昭和36年 | 1000年近く続けていた秋祭りで馬7頭立ての(当人子、6座頭)山辺郡都祁村友田の都祁水分神社参拝は生活改善の為中止される |

740(天平12)年の聖武天皇の新京への足跡

吉光妃




馬場家一統の元庄屋新屋(新谷家の屋号)の古文書



小廣家所蔵の古代伊勢街道が載っている地図

向渕の地名の由来：大昔は大倭国山辺郡竹渓郷でしたが後世に南北の山麓標高５００ｍに龍王ケ渕と飯降ケ渕が向かい合っている地形から向渕と改めた。1716～1736 享保年間編纂「大和志」

今回向渕の歴史を継承する会の第一歩としてこの資料を作成するに至りました。そして古道調査・確定にご協力下さった方々に御礼申し上げます。この資料を一人でも多くの方の目にし、古代伊勢街道の足跡を知る一助となることを心より願っています。　(向渕の歴史を継承する会代表　福井秀典)

宇陀市まちづくり活動応援補助金
8 －C －1　7000